

広報

しょうぼう さつま

119

vol.12

平成22年10月発行

編集・発行

さつま町消防本部

鹿児島県薩摩郡さつま町時吉366

Tel 0996-52-0119

Fax 0996-53-0119

Web <http://www.satsuma-net.jp/119/>

mail [shobo@satsuma-net.jp](mailto:shobo@satsuma-net.jp)



緊急消防援助隊九州ブロック訓練の様子  
※12面に関連記事

平成22年度全国統一防火標語

「消したかな」  
あなたを守る  
合言葉

主な内容

- 1～2 ページ…緊急消防援助隊九州ブロック訓練開催
- 3 ページ……秋の全国火災予防運動  
住宅用火災警報器の設置促進
- 4 ページ……わがまちの消防団(一ツ木・白男川分団)  
消防本部からのお知らせ
- 5 ページ……最新型の救助工作車を導入



### さつま町消防本部 被災地初動対応訓練



発災直後から消防活動対策本部を設置し、情報収集や部隊配備等の運営を行う訓練。緊急消防援助隊指揮支援本部（鹿児島市消防局支援隊長指揮）が設置され、援助隊の部隊運営を行う訓練を実施しました。

### 県災害対策本部 被災地初動対応訓練



県に設置された、消防応援活動調整本部に消防署員等関係者を配置し、被災地の情報収集・伝達を行う訓練。調整本部は、緊急消防援助隊応援要請訓練や、配備された各県援助隊の部隊運営を行う訓練を実施しました。

### さつま町サテライト会場



### 埋没車両救出訓練

柏原の川内川河川敷で、地震により崩れた土砂に車両が埋まったとの想定。派遣された福岡県援助隊により救出された傷病者を、宮崎県消防防災ヘリにより病院へ搬送する訓練を実施しました。

### 倒壊家屋救出訓練



地震により倒壊した家屋に閉じ込められたとの想定で行われ、各県救助部隊が救助資機材を駆使して救出。救助部隊やDMATによる応急処置のち搬送する訓練。

### 多数傷病者搬送訓練



複数の傷病者が同時に多発したとの想定で行われ、現場に投入されたDMATと各県救助部隊とが連携して応急救護所での確かな応急処置を行い、病院へ搬送するまでの訓練。

### 被災地での野営訓練



被災地での衣食住の確保は、すべて出動隊の責任において行うことが原則です。そこでエアテント等を設置して被災地を想定した野営の訓練も行われます。

## 緊急消防援助隊とは？

緊急消防援助隊は、平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災を教訓に、全国の消防機関による応援を速やかに実施するため、平成7年度に創設され、平成22年4月現在、全国785消防本部から4,264部隊が登録されています。さつま町消防本部も消防隊1隊、救急部隊1隊を登録しています。緊急消防援助隊は、指揮支援部隊、都道府県隊指揮隊、消防部隊、救助部隊、救急部隊、後方支援部隊、特殊災害部隊、特殊装備部隊、航空部隊、水上部隊と多岐にわたる精鋭部隊から構成されています。



# 九州全県の精鋭たちが集結

## 緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練が開催

「平成22年10月8日午前8時00分ごろ、薩摩川内市及びさつま町を震源とする震度6強の大規模な地震が発生。各地で人的・物的に被害が拡大している。」

このような想定のもと、平成22年度の「緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練」が薩摩川内市をメイン会場、さつま町をサテライト会場として実施されました。

訓練には緊急消防援助隊126部隊、490名の精鋭たちの他、陸上自衛隊やDMAT（災害派遣医療チーム）などが参加。

10月8日は、県など防災関係機関による「被災地初動対応訓練」が行われ、災害対策本部運営訓練や緊急消防援助隊応援要請連絡訓練等が実施されました。

10月9日は、薩摩川内市宮里公園において、倒壊家屋や埋没車両などからの救出訓練や救急搬送訓練などが、事前に想定が示されないブライズド訓練として、雨天の中実災害さながらに実施されました。



# 秋の全国火災予防運動

全国統一防火標語

『消したかな』

あなたを守る

合言葉

11月9日はその数字の語呂合わせから「119番の日」です。この11月9日から15日までの1週間、秋の全国火災予防運動を実施します。

これから空気が乾燥し、非常に

火災が発生しやす

い時期を迎えます。

一人

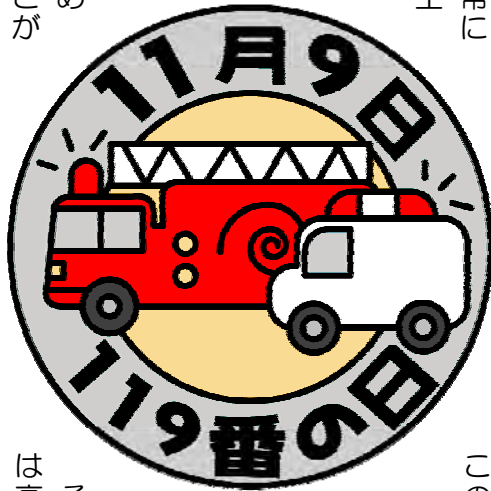
ひとりが防火

意識を高め

ていくことが

火災から大切な命や財産を守る上でも非常に重要

です。この時期には、消防本部でもさまざまな場所で防火イベントなどを開催しています。積極的に参加して、正しい防火知識と技術を習得してください。



昨年(2020年)は全国で5万1千件の火災が発生しており、877人の方が亡くなっています。

このうち、住

宅火災に

よる死

者(放

火自殺

者等除

く)は

1,023

人で、

その約6割

は高齢者です。

さらに住宅火災によ

る死者の半数は「逃げ遅れ」

により発生しています。

この逃げ遅れによる死者

を防ぐ効果が期待できるの

が「住宅用火災警報器」の

設置です。

## 住宅用火災警報器 設置義務化まで

# あと242日

※平成22年10月1日現在

### 奏功事例ぞくぞく

#### さつま町でも報告が

消し忘れたコンロの上の鍋から煙がでており、すぐにコンロの火を消して大事には至らなかった。

◎考察

火災警報器の警報音は屋外にも聞こえることがあり、隣家の人が気付くことで火災を未然に防ぐことができたと事例です。

◆事例1

火災警報器が鳴ったため寝室を出たところ、部屋に煙が充満していた。台所へ行くと、ガスコンロの上の鍋から大量の煙が出ていたため、すぐにコンロの火を消し大事には至らなかった。

◎考察

火災警報器のおかげで、火災になる一歩手前の段階で自ら早期発見できた事例です。

◆事例2

隣の家から火災警報器の警報音が鳴っているのに気が付き、確認したところ窓から煙が出ており、すぐに119番通報。駆けつけた消防隊が進出したところ、

これ以外にも全国各地で、住宅用火災警報器を設置していたことで、被害が最小限に抑えられた事例が数多く報告されています。住宅用火災警報器はあなたの大切な命を守ります。早急な設置を重ねてお願いいたします。



# シリーズ わがまちの消防団

## 白男川分団

※平成 22 年 9 月 1 日現在

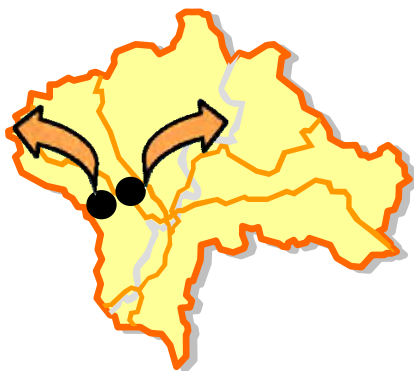
分団長 宮脇 俊郎  
副分団長 久徳 忠 以下 20 名  
管轄～白男川区全域  
(192 世帯 436 名)

白男川分団は、住民が安心して暮らせるよう、団員 20 名で日々頑張っている活動をしています。

この地区も高齢化が進み、またほとんどの団員が昼間は勤めており、火災等が発生した時の対応を心配していましたが、消防災害支援隊が発足し、団員一同安心してるところです。

また、地域行事などにも積極的に参加して、地域の活性化のために協力をしています。

今後も団員へのご理解とご協力をお願い致します。



## 一ツ木分団

※平成 22 年 9 月 1 日現在

分団長 井上 清海  
副分団長 中村 浩二 以下 12 名  
管轄～一ツ木・海老川・日当瀬地区  
(123 世帯 301 名)

一ツ木分団は、一ツ木・海老川・日当瀬の三つの公民館の生命と財産を守るために日々頑張っています。

全団員が会社勤めですが、消防団 OB による消防災害支援隊の協力を得ながら、特に予防消防に努めています。

公民会一人一人のご協力も必要ですので、今後ともよろしくお願ひいたします。

## お知らせ

### ◆住宅用火災警報器に不具合

現在設置が進んでいる住宅用火災警報器の一部の機種に不具合が発生しています。

#### 主な不具合

- 長期使用をうたっていても短期間で電池切れになる。
- 誤って発報したり、故障の警報が鳴ることがある。

上記のような症状が確認された場合は、メーカーまたは消防本部予防係までお問い合わせください。

### ◆消火器などの不適正販売にご注意を

あたかも消防署員のような態度で、強引に消火器の詰め替えを勧めたり、住宅用火災警報器などを法外な値段で売りつけたりする、悪質な訪問販売が発生しています。少しでもおかしいと感じたら消防署までご連絡ください。

### ◆住宅用火災警報器の不具合機種情報と連絡先

総務省消防庁ホームページ

<http://www.fdma.go.jp/>

※総務省消防庁トップ→生活密着情報に掲載  
さつま町消防本部予防係

TEL 52-0119



**新 型**

**救助工作車に更新**



老朽化（平成6年購入）に伴い、消防本部ではこのほど最新の救助工作車に更新を行いました。  
今回の工作車は、排気量6,400ccの5速オートマチックで、運転操作の軽減が図られています。



主な機装として、3段ブーム式で吊り上げ能力2.9tのクレーンや400Wのメタルハイドランプ4灯を装備した照明装置、引張力5トンのウィンチなどを装備しています。  
これまでの車両から大幅に能力の向上が図られており、災害現場での有効活用を努めてまいります。

**消防ほっと写真館**



2010.05.09

柏原地区で防災訓練が行われ、署員が応急手当を指導しました。  
【町防災訓練】



2010.05.30

佐志木浜地区で、土砂災害発生時の避難訓練を実施しました。  
【土砂災害対応訓練】



2010.07.08

高校生2名、中学生4名が、厳しい訓練に必死に挑戦しました。  
【川薩清脩館高・山崎中職場体験】



2010.09.09

来場者に心肺蘇生法とAEDの取り扱いの指導をしました。  
【救急医療町民講座】



2010.09.13

真剣なまなざしで画用紙いっぱい消防車を描きました。  
【消防車写生会】



2010.09.16

多数の傷病者発生時の応急手当や搬送訓練を行いました。  
【集団救急事故訓練】